

令和 8 年度 丹沢レジデンシャルホーム 地域連携推進会議 報告書

日 時：令和 8 年 7 月 6 日(月)

【会議】 10 時～10 時 50 分 場 所：丹沢自律生活センターばだい 会議室

出席者：菩提自治会連合会 会 長 A 氏

丹沢レジデンシャルホーム 居住者自治会 副会長 C 氏

丹沢レジデンシャルホーム 居住者家族 D 氏

社会福祉法人常成福祉会 理事長 伊藤 崇博

丹沢レジデンシャルホーム 施設長 千葉 高史 (事務局)

(菩提中西自治会 会長 B 氏は、急用により欠席。その後、来所され、施設内を見学された)

概要

令和 8 年度の丹沢レジデンシャルホーム地域連携推進会議（昨年度に続き 2 回目）が開催された。本会議は、施設の事業内容への理解と支援を得ること、および防災相互援助協定の確認を目的としている。伊藤理事長から、昨年度の会議後に行われた裏山の擁壁に関する行政への働きかけに対し、感謝の意が表された。

目的と構成員の役割

本会議は昨年度から義務化されており、①利用者と地域の関係づくり、②施設や利用者への理解促進、③サービスの透明性と質の確保、④利用者の権利擁護を目的とすること、構成員には、施設と地域を繋ぎ、施設訪問を通じて利用者や職員と関係を築く役割が期待されていることを事務局より説明し、開始。

令和 7 年度 丹沢レジデンシャルホーム事業報告（資料に基づく報告の概要）

● 重点目標の主な取り組み

- ✧ 居住者の意思決定支援：最重要課題として、利用者の意思表明機会等を確保し支援に繋げる取り組みを推進。個別支援計画の作成・総括を年間で分散化し、職員の負担軽減と質の向上を図った。
- ✧ 災害対策の強化：法人防災訓練に加え、施設独自の訓練（初動対応、備品、避難ルートの確認）を実施し、職員の初動対応力を強化。全職員の実地訓練はできなかったが、書面確認で周知を図った。

● 利用者の状況

- ✧ 定員 40 名に対し、入所・退所が各 5 名。退所者のうち 2 名はグループホームへ地域生活移行した。
- ✓ 自分は施設での意思決定支援を受けて、秦野市内にとどまらず、介護タクシーを利用して海老名市に出かけたり、シネコンで映画を鑑賞するなど、活動範囲を少しずつ広げている。（居住者自治会）
- ✓ 昨年度、県庁での意思決定支援の事例発表に参加した際、多くの関係者の前で緊張したが、非常に勉強になった。今のお話をうかがって、入所している自分の家族もいずれ単独で外出できるようになるのかもしれないと希望が持てた。（居住者家族）

防災相互援助協定の更新

本日付で、協定を更新。内容は前回から変更なし。丹沢レジデンシャルホームでは、令和 7 年度内に、補助金を活用して防災倉庫を更新し、備蓄品も増強済みであることを共有。

施設裏山の斜面の防災対策

- ✓ 昨年は、菩提自治会連合会として秦野市に防災対策を実施を働きかけ、秦野市と県の現地確認に同席した。法面が広範囲なため部分的な擁壁施工はかえって災害リスクを高めるとの理由で、施工は難しいとの回答があったと聞いた。しかし、未了案件として認識されている模様だ。菩提自治会連合会としては、今後も行政の防災担当者へ継続的に働きかけていく方針。（菩提自治会連合会）

近年の気象状況から裏山の安全性への懸念が強く、福祉避難所としての重要性を市や県に伝え、防災対策を求めていることを全体で確認した。

備蓄品の管理では、他自治会で賞味期限切れの備蓄品の配布があった事例を受け、備蓄品の適切な管理について質問があったが、当施設では備蓄品の期限を定期確認し、期限が近いものは給食で消費するなど管理を徹底していることを報告し、了解を得た。

地域での熊出没の可能性と対策

- ✓ 先月、葛葉の泉で熊らしき糞が発見され注意喚起の看板が設置されたが、熊のものとは断定されていない。過去の同様の事例でも分析の結果、熊ではなかった。現状、秦野市菩提地区などで熊の確定情報はなく、鹿やイノシシの目撃情報の方が多い。北地区にはイノシシや鹿を対象とする狩猟免許保持者が複数名いる。現時点では熊に対する具体的な対策は行われていない。（菩提自治会連合会）
- ✓ 今年度に入り施設内でも多量の獣の糞を発見し、秦野市に写真を送って相談したことがあったが、熊のものではないとの判断であった。（事務局）

現状では、近隣での熊出没情報は無いが、今後も情報収集に努め、必要な対策を講じていく。

【見学】 10 時 50 分～11 時 20 分 場 所：丹沢レジデンシャルホーム

出席者： 菩提自治会連合会	会 長 A 氏
丹沢レジデンシャルホーム	居住者家族 C 氏
丹沢レジデンシャルホーム	施設長 千葉 高史（事務局）

館内を巡回後、屋外へ移動。今年も裏山の斜面を確認いただき、施設で行っている対応（山の上から流れてくる大量の雨水が裏山の斜面に流れ込まないように土嚢を積んで水の流れをコントロール、鹿などが斜面に入って土を削らないようにネットを張り巡らせる、など）を説明。防災対策の実施に向け、行政への更なる働きかけの必要性を共有した。また、施設周囲を回って動物のフンが発見された場所などを点検した。

以上